2013年の回顧と2014年の展望
どうしたブラジル経済 –W杯と総選挙のインパクト–

運輸サービス部会　森田　透

2014年2月20日

運輸サービス部会の対象業界

- 物流
- 構内物流、機工、整備
- 海運
- 航空貨物
- 旅客航空
- 旅行、ホテル
- 通信、ＩＴ

物流業界

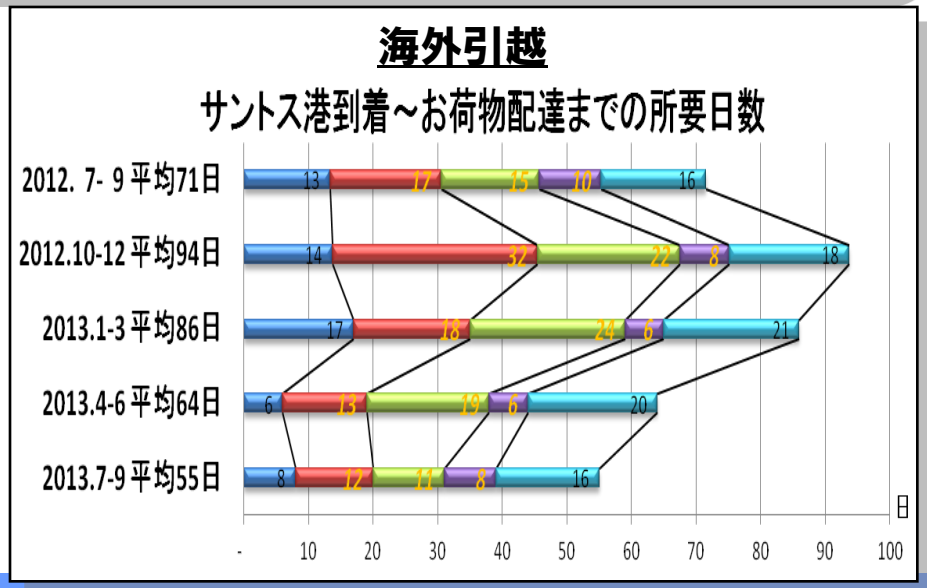
2013年回顧

- Santos港の新規コンテナターミナル*EMBRA Port*/ *BT Terminal*がオープン
- 港湾近代化の動きに対し*港湾労働者、トラッカーが反発*。ストが頻発
- PIS/COFINSの課税計算方式の変更による税額の低下

2014年展望

- ターミナルへのアクセス、インフラ改善が必要。港湾料金の低下に期待
- ワールドカップの時期に抗議運動の影響が懸念
- 自動車関連のＩＰＩ減税終了に伴い輸入量減少の心配

運転手新労働法、ディーゼルオイルの値上げによるコストアップの傾向。
2014年も同様の傾向が続くと予想され、人材に関しても、2013年同様にプロフェッショナルの確保が困難と予想される。



構内物流

2013年回顧

ブラジル製鉄業界の国際価格競争力が弱く、協力会社に対してのコスト削減要求、および同業者との競争が激化

2014年展望

- 製鉄所の協力会社に対するコスト削減要求は引続き継続
- 同業他社との競争も継続的に激化する予想
- 選挙による公共投資及び建設部門の増加による販売増が期待される

製鉄所の協力会社として、顧客製鉄所と同スタンスでのコスト削減に向けての強力な取り組みが必須である。

世界の鉄鋼メーカーの粗鋼生産量順一覧

1:アルセロール・ミッタル・ルクセンブルグ(93.6)
2:新日鐵住金・日本(47.9)
3:河北鋼鉄集団・中国(42.8)
4:宝鋼集団・中国(42.7)
5:ポスコ・韓国(39.9)
6:武漢鋼鉄・中国(36.4)
7:江蘇沙鋼集団・中国(32.3)
8:首鋼集団・中国(31.4)
9:JFEスチール・日本(30.4)
10:鞍山鋼鉄集団・中国(30.2)
11:山東鋼鉄集団・中国(23.0)
11:タタ・スチール・インド(23.0)
12:USスチール・米国(21.4)
13:ニューコア・米国(20.1)
14:ジェルダウ・ブラジル(19.8)

*(カッコ)の粗鋼生産量の単位は百万トン。順位は2012年時点。

ブラジル企業・ジェルダウは14位、ウジミナスは40位

海運業界

2013年回顧

- 輸出量は前年比約3.1%減、輸入量は前年比約3.6%増
- 全体における対アジア輸出が22%、輸入は46%
- サントス港の新コンテナターミナル（BTP、Embraport）が運営開始。コンテナ取扱い能力が約30%増に
- コンテナ船の大型化傾向が進んだ

2014年展望

- コンテナ貨物の輸出入量は2013年を若干上回るものと期待
- 港湾の浚渫作業、新規ターミナルの第2フェーズが稼動となればフレキシビリティが増大するものと期待
- 荷動き量は2014年以降も引続き増加傾向を見込んでおり、引続き大型船化が進む

サントス港を中心に、船型大型化とそれを受け入れるターミナル設備や港湾整備が進められる一方、今後増加していく輸出入貨の取扱いを効率的に行うべく、港湾アクセスを含めた周辺施設の改善が急務。

航空貨物業界

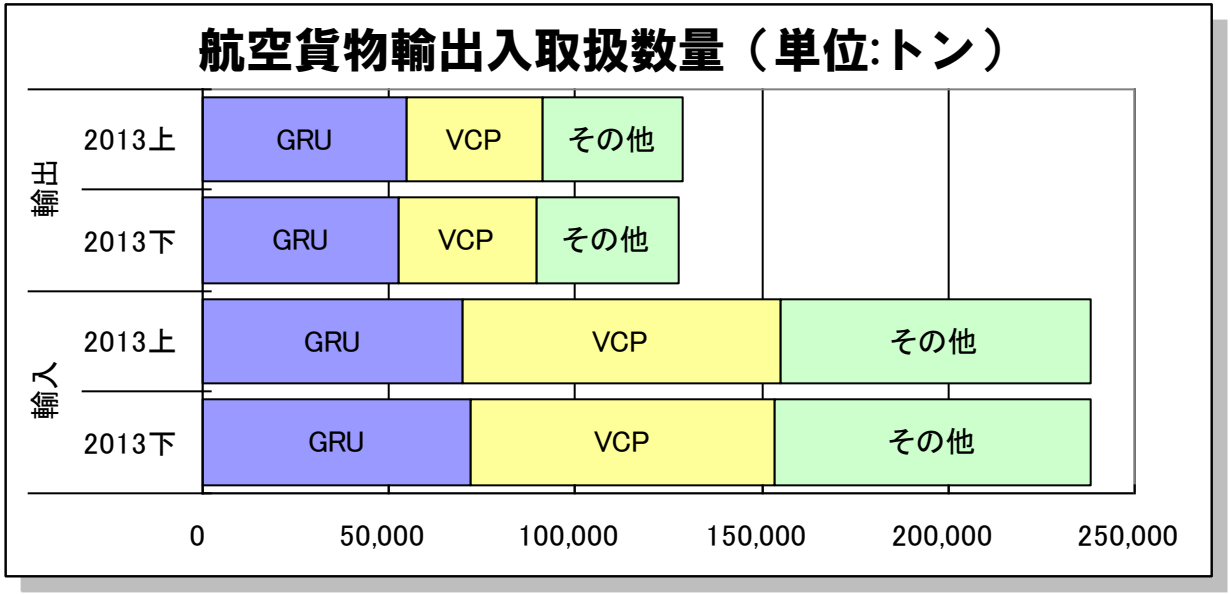
2013年回顧

- ワールドカップ需要に伴う輸入増が期待されたが、一部家電を除き、目に見えるような物量増は無かった

2014年展望

- ワールドカップ需要は見込まれるものの全体物量は横ばいの見通し

空港の民営化が進み、インフラの改善とリードタイムの短縮を期待する



民営化された空港

- VCP
- GRU
- BSB
- GIG
- CNF

航空旅客業界

2013年回顧

- 提供座席数減少の一方、旅客数は前年を超え、引き続き堅調。旅客単価は2010年以降 毎年8%程度上昇。（燃料費,税金等の反映）
- 新規乗入れ、増便等の効果もあり、旅客数は堅調に推移した。
- フライトオペレーションの改善（効率的に発着できるよう管制機能強化）により、対前年 3.6% 発着便数を増加。
- 中東路線の新規開設、北米路線の増便、新規路線開設等が行われた。

2014年展望

- W杯期間は1500便増便する計画。旅客単価はW杯効果もあり前年以上に上昇する見込み。
- W杯の海外からの流動が不透明。W杯期間中はビジネス流動が落込む。
- GRUAPO第3ターミナルの完成により、便数の２０％増加が期待される。サービス面の向上も期待、
- 機材の大型化等や増便等の検討されている。

検討すべき課題は「空港=市内間アクセスの改善」
「国内線=国際線の乗継利便性の向上」

旅行業界

2013年回顧

- 国内線売上：2012年の9%増
- 国際線売上：2012年の13％増
- 引き続きビジネス旅行による売上が伸びを占める
- ビジネス客の増加によりホテルの稼働率が上昇し売上が対2012年の21%増

2014年展望

- ワールドカップ開催により、エアライン（国内線、国際線）のビジネス利用は大幅に下がると予想
- ホテルもワールドカップ試合開催地での稼働率が上がる傾向にあるが、ビジネス利用は低下と予想

ビジネス旅行客が継続的に増えており、旅行関連業界は全て好調。

ワールドカップの一時的な影響もあるがこの傾向は継続する様子。

旅行業界

ワールドカップ関連トピック

- エアライン、ホテルともにレジャー旅行利用が増加
  ビジネス旅行利用は7割減の予想

- Wカップ関連で200万人の雇用創出計画がある。
  但し、人材育成が間に合うか不明。

- ワールドカップ期間中の旅客運賃が高騰する。
  各航空会社は試合期間中増便を行う計画を発表。

- ホテルに関してFIFAが開催地のブロックしていたが、
  一部の客室を開放。
  各開催地で20～50％の客室がリリースされた。
  料金設定は現状、不明。

通信業界

2013年回顧

- 通信インフラへの設備投資が進まず、回線の状況は依然悪い。

2014年展望

- ブラジル国内の4キャリアの再編が進むものと思われる。
- Smartphone利用の高まりにより、よりリッチなデータサービスへのニーズが拡大するため、各種アプリケーションの導入が予想される。

通信インフラへの投資が鈍化。脆弱なインフラ環境が継続。

FIFA WORLD CUP Brasil

ワールドカップ関連トピック

- ワールドカップ開催エリア、会場については、WiFi等、通信インフラの増強が行われる予定である。
- 各通信キャリアの設備投資が進んでいないので、ワールドカップを機にブラジルの通信インフラの脆弱が露呈される可能性が大である。

ＩＴ業界

2013年回顧

- 工場建設案件、オフィス新設案件の需要増加
- 既存企業においてはＩＴ投資の抑制が見られ、成長はやや、鈍化。
- ＳＰＥＤ（公共簿記システム）関連のシステム導入対応が引続き増加
- アウトソーシングサービス（ＩＴＯ、ＢＰＯ）の需要増加

2014年展望

- ワールドカップ、オリンピックに向けたＩＴインフラ投資拡大の期待が高まる
- 特に、政府系や製造業からの積極的なＩＴ投資が見込まれる
- ＥＲＰ（ＳＡＰ・Ｏｒａｃｌｅ等）導入案件の増加
- ＳＰＥＤ（公共簿記システム）のＥ－ＳＯＣＩＡＬの対応増加
- アウトソーシングサービスの需要は引き続き堅調

ＩＴインフラの充実、優秀なＩＴ人材の確保が大きな課題